

令和4（2022）年度入学生のカリキュラム

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
第1学年	現代の国語	公共	数学Ⅰ	科学と人間生活	体育	保健	芸術 音楽Ⅰ 美術Ⅰ	英語 コミュニケーションⅠ	ビジネス基礎	簿記									
第2学年	言語文化	数学Ⅰ	生物基礎	体育	保健	英語 コミュニケーションⅠ	家庭基礎	簿記	情報処理										
第3学年	国語表現	地理総合	数学Ⅱ	体育	英語 コミュニケーションⅡ	ビジネス会計 (学校設定科目)	情報処理	原価計算 or 文書デザイン(学 校設定科目)	人間と社会										
第4学年	国語表現	歴史総合	数学Ⅱ	体育	英語 コミュニケーションⅡ	書道Ⅰ	ビジネス・ コミュニケーション	ビジネス 法規	課題研究										

は必修（情報Ⅰは情報処理で、総合的な探求の時間は課題研究で代替する）。
 は商業科目
 ※公共・家庭基礎は1～2年のうちに履修する。

平成31（2019）年度～令和3（2021）年度入学生のカリキュラム

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
第1学年	国語総合	日本史A	数学Ⅰ	科学と人間生活	体育	保健	芸術 音楽Ⅰ 美術Ⅰ	コミュニケーション 英語基礎	ビジネス基礎	簿記									
第2学年	国語総合	世界史A	数学Ⅰ	家庭基礎	体育	保健	コミュニケーション 英語基礎	簿記	情報処理										
第3学年	現代文A	現代社会	数学A	体育	コミュニケーション 英語Ⅰ	課題研究	簿記	情報処理	人間と社会										
第4学年	国語表現	数学A	生物基礎	現代文A or 数学活用 or 英語表現Ⅰ	体育	コミュニケーション 英語Ⅰ	ビジネス 実務	経済活動 と法	ビジネス情報 or 原価計算										

平成30年6月の民法の改正により、平成34年(2022年)4月1日から成年年齢が18歳に引き下げられ、18歳から一人で有効な契約をすることができるようになります。一方、保護者の同意を得ずに締結した契約を取り消すことができる年齢が18歳未満となります。

このことをふまえて、成年年齢(18歳)になる前に、消費者教育に関する内容を含む家庭基礎を、第2学年までに履修しておく必要が生じました。そこで、平成31年度(2019年度)入学生から、カリキュラムを上表のように変更いたします。

変更箇所は赤枠で囲ってあります。